

# 山正ニュース

株式会社 山 正			
本社・緑化部	岐阜市市橋4-5-15	Tel	<058>271-4468
岐阜営業所	岐阜市市橋4-5-15	Tel	<058>271-4466
可児営業所	可児市川合塚越345-1	Tel	<0574>62-5228
富山営業所	富山県射水市大江207-1	Tel	<0766>55-3882
飛騨営業所	高山国府町857-2	Tel	<0577>72-4466

2012年12月号(通巻43号)

## § 1 病害虫と雑草の発生状況を振り返る

～病害虫ではカメムシ類が多発傾向、  
雑草では依然として取りこぼしが目立つ！！～

今年も年末を迎える時期になりました。春先には爆弾低気圧が襲来し、夏には猛暑に遭遇するという厳しい年でしたが、農家の皆様の努力によりおおむね良好な農産物の生産が確保されることになりました。

主力の米については10月15日現在、岐阜の作況が前回(9月15)より1ポイント上がって101、1等米比率も77.2%(昨年68.9%)と上昇し、厳しいなかでの健闘が光りました。富山でも、作況100の平年並みとなりましたが、1等米比率が昨年比7.4ポイント減の74.6%にとどまり、主たる格落ちの原因は「胴割れ」や「白未熟」によると見られていることから、猛暑のなかで登熟を迎えた場合の品質向上策に課題が残ったといえます。

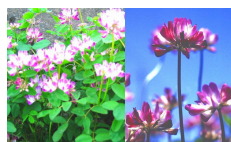
病害虫の面では、警報が発表されるような大きな問題となったものではありませんでしたが、カメムシ類が多発傾向にありました。下表には平成24年の1月から11月末までの間に岐阜と富山で発表された病害虫に関する注意報並びに特殊報を示しました。果樹のカメムシ類に対する注意報が両県で発表され(次ページに解説記事あり)、富山では斑点米カメムシ類に対する注意報も発表されています。また、岐阜ではこれまで西南暖地で発生していた大型のミナミアオカメムシの発生も確認されています(特殊報、発生の初確認は平成23年9月末)。被害については、的確な防除対策がとられた結果、果樹及び水稻の被害ともに心配されたほどのことにはなりませんでしたが、全国的にもカメムシ類の多発傾向が続いていることに加え、ミナミアオカメムシのように暖地型のものが北上していることもあり、次年度以降も的確な対応が必要になるものと思われます。また、特殊報で注意が喚起されたカキヘタムシガ・クリのナラウスズジハマキホソガ・トマト(夏秋型栽培)灰色かび病、トマト葉かび病(以上岐阜)、タマネギ萎黄病(富山)などの発生動向にも注意をしていく必要があります。

雑草防除の面では、旧盆過ぎになってヒエやクサネム、アメリカセンダングサなどの‘取りこぼしの雑草’がかなり目立つ圃場が散見されました。これは一発剤の防除効果に振れがあった結果と思われることから、除草剤の効果を最大限に発揮させるような水管理が一層重要になるものと思われます。

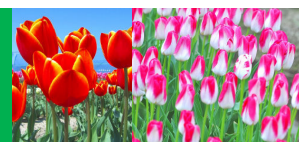
平成24年に発表された病害虫発生注意報・特殊報(11)月末現在)\*

	種 類	発表月日	内 容	年度区分
岐阜県	注意報第1号	7月19日	果樹カメムシ類(主にチャバネアオカメムシ)	24年度
	第2号	8月2日	カキヘタムシガ(第2世代幼虫)	〃
	第3号	9月13日	トマト(夏秋型栽培)灰色かび病	〃
	特殊報1号	5月31日	トマト葉かび病レース2.4、4.9、4.9.11および2.4.9.11	〃
	特殊報2号	3月5日	ミナミアオカメムシ( <i>Nezara viridula</i> (Linnaeus))	23年度
	特殊報3号	3月5日	ナラウスズジハマキホソガ <i>Caloptilia (Povolnya) querci</i>	〃
富山県	注意報第1号	7月13日	斑点米カメムシ類の多発に注意！！	24年度
	第2号	7月31日	果樹カメムシ類の多発に注意！！	〃
	特殊報2号	3月29日	タマネギ萎黄病の発生について	23年度

\* 平成24年1月～3月に発令されたものの年度区分は23年度。



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



## § 2 注意報が発表された

### チャバネアオカメムシとクサギカメムシの生活史

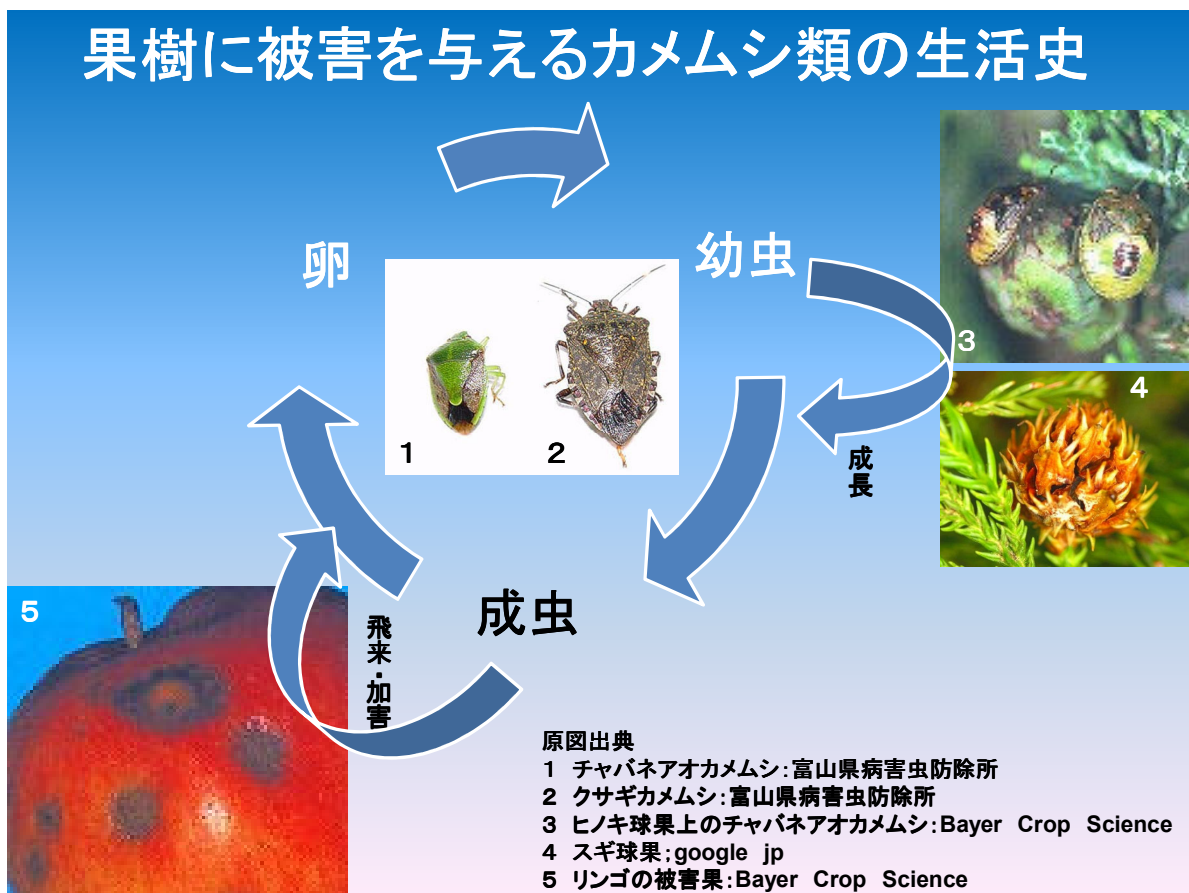
～温暖化の影響で多発か？ 来年も成虫飛来に対応した的確な防除対策が必要～

果樹に対する注意報が発表されたのはチャバネアオカメムシ（体長 10～12mm）とクサギカメムシ（体長 13～18mm）の 2 種。岐阜ではチャバネアオカメムシ、富山ではクサギカメムシに対する注意が喚起されたものです（§ 1 参照）。

下図にはこれら 2 種のカメムシの生活史を示しました。カメムシ類は半翅目に属する昆虫で不完全変態します（蛹の時期がない）。本州中部では一化性とみられ、成虫で越冬。越冬場所は朽木のひびの間、枯れ木の樹皮下など遮蔽されたところで、人家などに進入することもあります。越冬成虫は 6～7 月にかけて交尾と産卵を繰り返し、秋のはじめごろまでに死亡します。6～7 月に産卵された卵は孵化した幼虫がスギやヒノキなどの球果上で脱皮を繰り返し、5 齢を経て新成虫になり、そのまま越冬します。

リンゴやカキ、ナシ、モモ等の果実には成虫が飛来して被害を与えますが、一般に夜間に気温が高く、風の弱い日が続くと被害が多発するといわれています。また、幼虫の生息場所であるスギやヒノキなどが多い山際の園での被害が多くなる傾向があります。成虫は夕刻から活発に飛翔するようになるので、防除には朝夕の薬剤散布が有効であるとされていますが、生息地から飛来して被害を与えるので、防除が難しい害虫といえます。今年のメーカーによる展示圃の試験例ではリンゴに対してキラップフロアブルの効果が高かったとする報告がありますので、参考にさせていただきたいと思います。なお、果樹の場合は孵化した幼虫が果実に被害を与えることはなく、被害を与えるのは園の外から飛来してくる成虫だけです。

今年は大きな被害にはいたりませんでした。今後とも高温傾向が続くのではないかとされており、それに伴ってカメムシ類の多発傾向も継続することが予想されますので、生活史をよく理解しながら、関係機関から提供される成虫の飛来予測数などを参考に的確な防除対応を図ることが重要になります。



§ 1 病害虫と雑草の発生状況を振り返る  
～病害虫ではカメムシ類が多発傾向、雑草では依然として取りこぼしが目立つ～（名畑技術顧問）・・・1 ページ

§ 2 注意報が発表されたチャバネアオカメムシとクサギカメムシの生活史  
～温暖化の影響で多発か？ 来年も飛来状況に対応した的確な防除対策が必要～（名畑技術顧問）・・・2 ページ